

平成 29 年度 裁判所事務官（一般職）本試験（基礎能力試験） 講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率*	講評
1	文章理解 (現代文)	内容把握	2	A	【文章理解】 現代文：昨年は内容把握が2題、空欄補充が1題、文章整序が2題の構成であったが、本年は内容把握が4題と文章整序が1題の構成となった。例年、裁判所職員の文章理解は、文章整序の問題が非常に難しかったが、本年の文章理解は非常に簡単であった。内容把握の問題については例年通りの難易度であることから、昨年よりも文章理解全体での得点率が上がったことと思う。
2		内容把握	2	A	
3		内容把握	4	A	
4		内容把握	1	A	
5		文章整序	2	A	
6	文章理解 (英文)	内容把握	2	B	英 文：昨年は内容把握が2題、空欄補充が3題の構成であったが、本年は内容把握が3題、空欄補充が2題の構成となった。例年、裁判所職員の英文は選択肢が英文であることが特徴であるが、本年は内容把握のうちの1題の選択肢が日本語であった点も例年と異なる点であった。他の試験種に比べて英文の難易度が高いことが特徴で、単語の注釈もほとんどつかないため、語彙力も非常に重要な要素になったと思われる。
7		空欄補充	1	A	
8		内容把握	3	B	
9		内容把握	1	B	
10		空欄補充	4	B	
11	数的処理 (判断推理)	論理式	1	B	【数的処理】 判断推理：論理式、対応関係、真偽、順序関係、円の回転、投影図、正多面体、立体図形の分割・構成から10題が出題された。今年の問題は全体的な難易度としては平年並みややや易であり、昨年とほぼ同程度であった。2年続けて解きやすい問題が多く出題されている。No. 11は論理式の問題であり、ド・モルガンの定理や命題の分割を効果的に使って解きたい。No. 12は表面的な種目名にとらわれず、思い切って当てはめて見るのがよい。No. 13は真偽の問題であるが位置関係の要素も含んでいる。矛盾のある発言はどちらかがウソなので、そこから絞るとよい。No. 14は「平均」や「和」という語が出てくるが数値を計算するわけではなく、それによって順番を考察する問題であり、難しくない。No. 15は順序関係の中でも抜く順番を考慮するやや複雑な問題である。No. 16は黒いコインが白いコインを1つまたぐごとに何回転するかを見抜く。角度の計算が必要になる。No. 17は基本的な投影図の問題で解きやすかったと思われるが、あまり正答率は良くなかった。No. 18は元の多面体の頂点を全て切り取った後は、もとの多面体にかかわらず頂点が+2、辺は+3、面は+1となることに気付くとよい。No. 19は形式的にはよく見る問題である。右側面の2段抜き部分の処理とほかとの重なりがポイントになる。No. 20もよく見る形式である。 数的推理：速さ、素因数分解・約数、確率、場合の数、図形の計量から6題出題されている。No. 21の速さの問題は動く歩道の問題と歩幅の問題を組み合わせたタイプの問題であるが苦戦した受験生が多かった。No. 22は是非取りたい問題だったが、上位層との分け目となったようである。No. 23も基本的な問題である。No. 24は班分けの組み合わせである。まず班の人数で場合分けをするとよい。No. 25、No. 26は高校の入試問題レベルの数学である。相似比や展開図の描き方、三平方の定理などが必要に応じて確実に使えるかどうか問われているが、難易度としては易しい。 資料解釈：実数の表から1題出題された。数値を眺めれば概算ができる程度の計算がほとんどである。サービス問題であり、試験の問題全体をまず概観し、科目や分野にとらわれず易しいものを見抜いて確実に得点することの大切さを改めて確認させられる。
12		対応関係	5	A	
13		真偽	5	A	
14		順序関係	1	A	
15		順序関係	1	C	
16		円の回転数	3	C	
17		投影図	2	C	
18		正多面体	4	B	
19		立体図形の分割・構成	4	C	
20		対応関係	2	B	
21	数的処理 (数的推理)	速さ	5	C	【社会科学】 経済・法学：法の分類、戦後日本経済史、経済用語からの出題であった。法の分類は、初歩的な知識を問うものばかりなので、裁判所職員を目指す受験生ならばぜひ正解しておきたい。戦後日本経済史は、一般的な日本史の知識だけでも解ける肢が多く、正解肢を判別することが比較的容易である。経済用語は、一般常識の範囲でも解ける選択肢もあり、経済学が専門ではない受験生でも正解肢を見出せたのではないかと、いずれの問題も基本レベルばかりなので、3問とも正解しておきたい。 政治（時事）：我が国の選挙制度、アジア情勢からの出題である。我が国の選挙制度は、2016年に実施された参議院議員通常選挙に関する事柄を中心に問うもので、公務員試験では選挙に関する出題が多いことを考えれば、準備が十分できている問題のはずである。アジア情勢は、主に2016年にアジアで起きた出来事について出題している。いずれの選択肢も大きく報道された出来事ばかりであるので、日ごろの時事対策の準備ができていれば、平易な問題といえる。どちらも基本レベルから標準レベルの問題であるので、2問とも正解しておきたい。
22		素因数分解・約数	3	C	
23		確率	1	B	
24		場合の数	3	C	
25		図形の計量	4	B	
26		図形の計量	4	A	
27	数的処理(資料解釈)	実数・構成比	5	A	【人文科学】 日本史：例年通り1題の出題である。出題範囲は例年明治時代以降の近代史が出題されてきていたが、今年は天保の改革の「上知令」の資料問題であった。資料を目にしたことはなくとも、問題文に1843年に出された法令、資料中に「上知」との文言があるため、基本的な勉強をしていた受験生にとっては正答は容易であったと思われるが、例年とは異なる範囲であったため、対策をとっていなかった人も多かったと思われる。 世界史：例年通り1題の出題である。毎年、他の試験種では出題されない分野や事項が問題になるが、今年もズデーテン地方の審議やミュンヘン会談など、公務員試験でほとんど問われたことのない範囲が出題されている。ただし、本問はAがオーストリア、Cでバンドン会議を消去できると、肢5に絞ることができたため、例年よりは難易度は低かった。 地 理：アメリカ合衆国の農牧業の空欄補充であったが、A～Dまでは基本事項であるが、冬小麦と春小麦の区別ができないと肢1と肢3の2択から絞れないことから、難しいが、よく学習していた受験生が多かった。 思 想：近代日本の思想家からの出題である。非常に基本的な問題であったと思うが、和辻哲郎と西田幾多郎以外の人物について、どこまで学習をしっかりとやっていたかで正答できたかできないかが分かれたと思われる。
28	社会科学(政治)	我が国の選挙制度	4	B	
29	社会科学(経済)	戦後日本経済史	4	A	
30	社会科学(法学)	法の分類	5	B	
31	人文科学(日本史)	天保の改革	5	B	
32	人文科学(世界史)	ファシズムの台頭	5	A	
33	人文科学(地理)	アメリカの農業	1	B	
34	人文科学(思想)	近代日本の思想	4	C	
35	社会科学(政治)	アジア情勢	1	B	
36	社会科学(経済)	経済用語	3	B	
37	自然科学(物理)	圧力	5	B	【自然科学】 物理から圧力、化学から物質と温度、生物から植物の分類、地学から天体の運動の計4問が出題された。複数の肢について正誤を問う問題は、昨年は1問と減少していたが、本年度は例年並みの3問に戻った。物理、生物、地学は、中学校で学習する内容が多かったため、逆に対策が薄くなってしまっていて、取り組みにくかったかもしれない。No. 37は、沈み方は重さではなく圧力で決まるということが理解できたかが問われた。No. 38は、絶対零度について理解できていれば容易ではあるが、あまり学習していない単元だっただろう。No. 39は、肢A～Cは中学校で学習する基本であるが、肢Dのジャガイモの生殖は、知らなかったかもしれない。No. 40は、天体の運動の基礎が問われていたが、東と西を取り違えないように慎重に解答したい。
38	自然科学(化学)	物質と温度	1	B	
39	自然科学(生物)	植物の分類	2	B	
40	自然科学(地学)	天体の運動	2	C	

※ 正答率 (A : 60%以上, B : 40%以上 60%未満, C : 40%未満) は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ (5/24 14 : 00 時点) に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員 Web サイトの専用ページ (<http://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>) にてご案内しています。



KL17095